

K120.73

42

8

K120.73
42
8

尋常小學唱歌

東京高等師範學校教授 佐々木吉三郎
學習院教授 納所辨次郎
東京高等師範學校教諭 田村虎藏 共編

第三學年中

發行所

株式會社 國定教科書共同販賣所

明治
39 10 1
丙午

緒言

本書は、現今尋常小學校の唱歌教授に、適切なる教材を供給せんとして、編纂したるものなり。而して、其教材は、尋常科第一學年より、同第四學年に至るまで、各學年各學期に配當したれば、順次編を逐ひて、教科用書に充て得べきものとす。編纂の際、特に注意せる諸點を擧ぐれば、左の如し。

- 一、題目、修身・國語の國定教科書に關係を有する事項、兒童の實際生活に親しき事項等に取り、以て、各教科の統一を図り、兒童の心理的要求に適應せしめんと力めたり。
- 一、歌詞、初學年には、多年小學教育に經驗を有する人の、手になれるものにつき、平易にして理解し易く、而も、詩的興味

を失はざるものを選び、漸く進みては、當代名家の作を加へ、以て、純正なる思想感情の養成に資せんとせり。

一、曲節、編者多年の研究に鑑みて、兒童發達の程度を精察し、音程・音域の如何を審査し、初は、快活にして勇壯なるものより、漸次に、優雅にして醇美なるものに進め、以て、審美的感情を育成せんことを期せり。

以上の外、音楽上並に教授上の、詳細なる注意等に至りては、不日公けにすべき、教授用書に詳説すべし。

明治三十八年五月廿八日

編者 識

目次

一 日清戦争……………	二	七 貝原益軒……………	三
二 虫の音……………	六	八 案山子……………	三
三 日本武尊……………	九	九 元寇……………	四
四 勤勉正直……………	三	一〇 石炭……………	六
五 運動會……………	五	二年の暮……………	六
六 山登り……………	六		

目次



日清戦争

(變ろ調二拍子)

田村 氏

活 潑 ニ

日清戦争

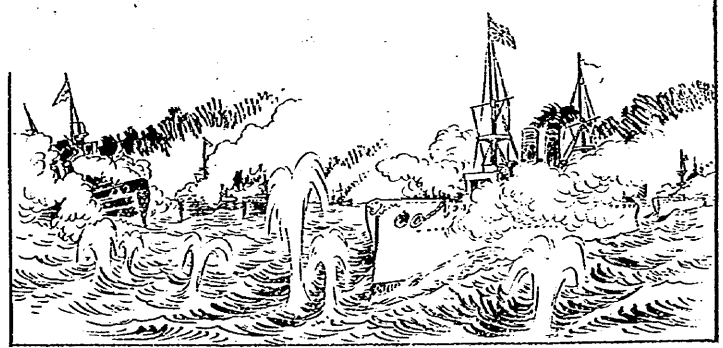
日清戦争 ★ 大和田氏

甲、黄海の戦

一、海はるかには、ながむれば、
雲かあらぬか、ひとむらの、
けむりなみまに、たなびきて、
うかへる軍かん、十二せき。

二、あれこそ目さす、ときよとて、
わがれんごーの、かんたいは、
せんとーじゅんび、おこたらず、
兵氣、勇みに、勇みたり。

日清せんそー



三、きよりは やうやく、 近づきて、

かれまつうちだし、 われおーじ、

ここに 開けし、 大海せん、

ほーせい 海わき、 なみ いかる。」

四、てきかん 三せき、 ちんぼつし、

その他は やかれ、 きずつきて、

しーりを いはふ、 ちちどきの、

こゑ は 天地を、 うごかしぬ。」

乙、 平壤の戦

一、てきのいのちと、 立てこもる、

よーがいけんこの、 平じょーじょー、

四めんひとしく、 せめよせて、

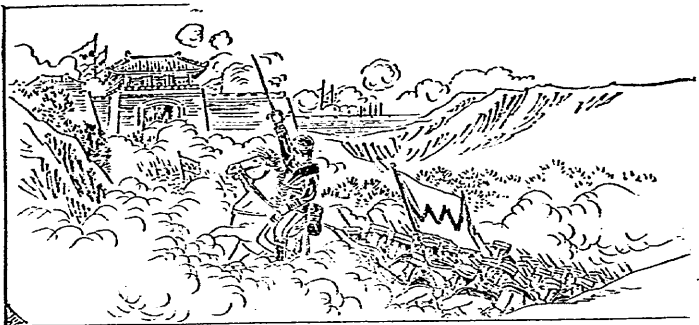
うたんとすすむ、 日本軍。」

二、こなたにみなぎる、 大同江、

わたすにたゆたふ、 こともなく、

かなたにそびゆる、 ぼたん だい、

おとすになにか、 かたからん。」



日清せんそ

三、ふりくる だんがん、 ものとせず、

日本男兒の、 いっしんに、

まづうちやぶる、 げんぶ 門、

とっかん 天地に、 ふるひたり。」

四、これより つき入る、 わが軍は、

さながら うしほの、 ごとくにて、

つひに のっとる、 しろのうへ、

かがやく 朝日の、 はた高し。」

虫の音



秋の長よを、うたうてあかす。

(虫の音一ばんのおなじ)

おもひおもひの、こゑおもしろく、

月にてそろふ、虫なかま、

二、天は高く、風はすずし、

秋の長よを、うたうてあかす。

ガシャガシャガシャガシャガシャガシャ、

スイッチヨ、スイッチヨ、ガシャガシャ、

リンリン、チンチロリン、チンチロリン、

われおとらじの、歌おもしろく、

野への千草の、虫なかま、

一、月はきよく、つゆは白し、

虫の音

内田氏

虫の音

(へ調四拍子)

軽快ニ

内田氏

Musical score for '虫の音' (Sound of Insects), composed by Uchida. The score is in 4/4 time and consists of five staves of music with corresponding lyrics in Japanese. The lyrics describe the sounds of insects like crickets and cicadas in an autumn setting.

虫の音

日本武尊

(は調四拍子)

日本武尊

壯 嚴 二 小 出 氏

1-3 5 | 6. 5 1. 6 | 5. 5 3. 6 | 5-0

1.	ム	カ	シ	ア	ヅ	マ	ノ	エ	ビ	ス	ラ	チ
2.	エ	ビ	コ	シ	ツ	カ	ニ	タ	チ	ム	カ	ハ
3.	ミ	ー	コ	ト	シ	ヅ	カ	ニ	フ	キ	カ	ハ
4.	ヤ	ー	カ	テ	シ	ヅ	カ	ニ	フ	キ	カ	ハ
5.	ミ	ー	コ	ト	シ	ヅ	カ	ニ	フ	キ	カ	ハ

6-1 2 | 1. 6 5. 3 | 2. 1 2. 3 | 5-0

イ	テ	テ	セ	イ	バ	ツ	シ	タ	マ	ヒ	シ
ビ	チ	バ	ハ	ナ	チ	テ	ミ	コ	ト	ラ	チ
ミ	ー	テ	ノ	ツ	ル	ギ	チ	ヌ	キ	モ	チ
モ	ー	ユ	ル	ホ	ノ	ホ	ハ	タ	チ	マ	チ
エ	ー	ビ	ス	カ	ヘ	リ	テ	ソ	ノ	ノ	ビ

九

6. 6 1 2 | 1-6 5 | 2 2 2 3. 2 | 1-0

ミ	コ	ト	ハ	タ	レ	ソ	ヤ	マ	ト	タ	ケ	ル
ホ	ノ	ホ	ニ	ツ	ツ	ミ	ウ	タ	ン	ト	マ	ス
モ	エ	ビ	タ	ツ	ク	サ	チ	ナ	タ	ギ	マ	フ
エ	ビ	カ	レ	テ	ノ	ヘ	ニ	フ	キ	カ	カ	ル
ヤ	カ	レ	テ	ハ	レ	ト	ナ	リ	ニ	カ	ケ	ル

日本武尊

(つぎ)

日本武尊

合 唱

3. 2 | 1-2. 1 | 6-1 6 | 5-3 1. 3 | 2-0

コ	ト	ニ	ア	タ	リ	テ	タ	フ	カ	ガ	ズ
,	,	,	,	,	,	,	,	,	,	,	,
,	,	,	,	,	,	,	,	,	,	,	,
,	,	,	,	,	,	,	,	,	,	,	,

3. 5 | 1-2. 1 | 6-5 1 | 6-5 3. 1 | 2-0

ト	キ	ニ	ノ	ソ	ミ	テ	サ	ワ	ガ	マ	ハ
,	,	,	,	,	,	,	,	,	,	,	,
,	,	,	,	,	,	,	,	,	,	,	,
,	,	,	,	,	,	,	,	,	,	,	,

3. 3 | 5-6. 6 | 1-3 1. 2 | 3-2 | 1-0

コ	レ	ソ	マ	コ	ト	ノ	ユ	シ	ナ	ル
,	,	,	,	,	,	,	,	,	,	,
,	,	,	,	,	,	,	,	,	,	,
,	,	,	,	,	,	,	,	,	,	,

八



一、むかし東あづまの、えびすらを、

いでてせいばつ、したまひし、

みことはたれぞ、やまとたける。

合唱「ことにあたりて、おどろかず、

時にのぞみて、さわがぬは、

これぞまことの、勇士なる。」

二、えびすこの時、野の草に、

火をばはなちて、みこたらを、

ほのほにつつみ、うたんとす。

合唱「はぶく」.....」

三、みことしづかに、立ちむかひ、

み手のつるぎを、ぬきもちて、

もえ立つ草を、なきたまふ。

合唱「はぶく」.....」

四、やがて野かぜの、ふきかはり、

もゆるほのほは、たちまちに、

えびすのうへに、ふきかかる。

合唱「はぶく」.....」

五、みことやかんと、はかりたる、

えびすかへりて、その野火のびに、

やかれてはひと、なりにけり。

合唱「はぶく」.....」



勤勉正直

(へ調四拍子)

文部省

Allegro. MM. ♩ = 104

1. 2. 3. 4.

ハーハン ニロニト シンシン ルンルン シキシキ シゴシゴ レシレナ マナマサ ウミウチ トヤトヤ トヨトル ヒミヒシ

ヨテテシ テミモリ タメロザ ナキコハ ミウコイ ヨルキヨ セユシハ マラダツ トアダイ ナトクニ ヘリホチ イアナチ

ミヤドノ トナヘカ ハトリロリ ハトクメ イヒツア バシチハ マレバロ ゲグノコ ハスツコ ニハキギョーニソホ カヒウナ

タンルルル ーガトガ タガトガ ハフズフ ミアキア バモノト マテミラ ゲマガシ ハヨシカ ビノクノ ナチガト マノナヒ

勤勉・正直

修身書

一、人とうまれし、しるしには、

家を富せよ、身をたてよ、

家業はげまば、家は富み、

まなびはげまば、身はたたん。」

二、見よや、みなしこ、金次郎、

ありとあらゆる、うきめ見て、

人にすぐれし、人となり、

後の世までも、あふがる。」

きんべんしよじき

三、人とうまれし、しるしには、

直く正しき、こころもて、

うそはそのばを、つくるへど、

永くわが身の、きずとなる。」

四、知るや、をさなこ、ワシントン、

父にいつはり、いはざりし、

直きところは、アメリカの、

人のかしらと、あふがる。」

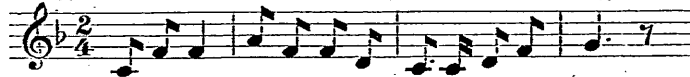
一三

運動會

(ハ調二拍子)

勇マシク

田村氏



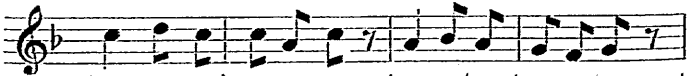
5 1 1 | 3 1 1 6 | 5. 5 6 1 | 2. 0

1. ヒゴロ キタヘ シコノウテ ナ
2. ネリニ ネリタル コノアシ ナ



1 3 3 | 5 3 3 2 | 1. 2 3 2 | 1. 0

イザヤ タメサン ヲンフー カイ
、 、 、 、 、 、 、 、



5 6 5 | 5 3 5 0 | 3 4 3 | 2 1 2 0

ヒケヨ ツナチ チカラ アハセ
ハシレ ハヤク ソラヲ カケル

運動會

一五

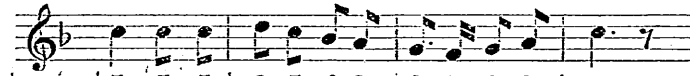
運動會

(つづき)



1 1 2 | 1 6 6 | 5. 1. 2 | 1 2 3 0

コエチ ヲロヘ ヒケヨ ヒケヨ
トリノゴトク トベヨ トベヨ



5 5 5 | 6 5 4 3 | 2. 1 2 3 | 5. 0

スハヤ カチイロ ミエタル ソ
スハヤ ナカマチ ×キタル ソ



6 6 5 | 4. 3 2 1 | 2 5 | 1. 0

スハヤ カチタリ パン パン ザイ
、 、 、 、 、 、 、 、

運動會

一四

うんどーかい 藤田 逸 氏

一、日ごろきたへし、このうでを、

いざやためさん、うんどーかい。

ひげよ、つなを、

あから あはせ、

こゑを、そろへ、

ひげよ、ひげよ。

すはやかちいろ、見えたるぞ、

すはやかちたり、ばんばんさい。」



二、ねりにねりたる、この足を、

いざやためさん、うんどーかい。

はしれ、はやく、

空を かける、

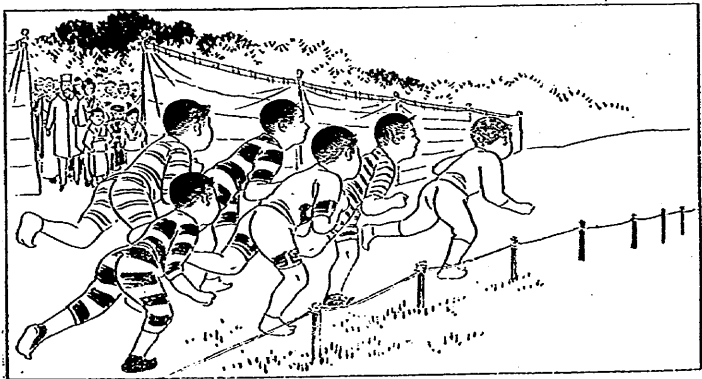
鳥のごとく、

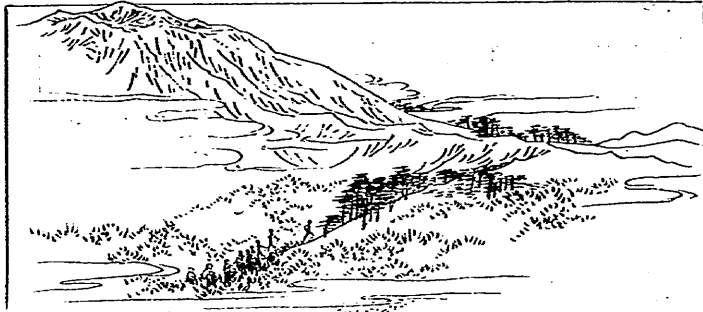
とべよ、とべよ。

すはやなかまを、ぬきたるぞ、

すはやかちたり、ばんばんさい。」

うんどーかい





山のぼり

山のぼり
 佐々木信綱氏

一、おもしろいけふの、山のぼり、
 のぼり行くみちの、りよーがはに、
 松がえはみどり、もみちはあしほ、
 おもしろい秋の、山のぼり。
 二、ならびたつをかは、にしききて、
 ふもと行く川は、ぎんのおび、
 田も畑ももりも、ひとめにみえて、
 おもしろい秋の、山のぼり。』

山登り

(變調二分の二拍子)



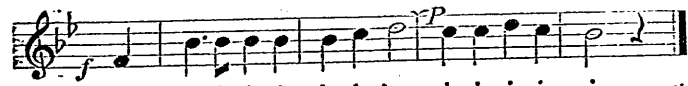
5 | 1.5 5 5 | 6 5 5- | 5 5 6 7 | 1-0 :||

1. オ モシロイ ケフ ノー ヤマノホ ヲ
 ノ ホリユク ミチ ノー ヲーガハ ニ
 2. ナ ラピタツ チカハ ニシキキ テ
 フ モトユク カハ ハー キンノオ ビ



3 | 2.3 2.3 | 2.3 2- | 2 2 2 1 | 7 6 5 |

マ ツガエハ ミドリー モミザハチシホ
 タ モハタモ モリモー ヒトメニミエテ



5 | 1.1 1 1 | 1 2 3- | 2 2 3 2 | 1-0 ||

オ モシロイ アキノー ヤマノホ ヲ
 、 、 、 、 、 、 、 、 、

山登り

貝原益軒

(へ調二拍子)

貝原益軒

誠實ニ 納所兵

1. ヨソキカ ラガモ ヨーショーノ
 2. ヒロキカ ココロモ ガクモ ン

3 キカ メア ラハ レス ヨゲ ヤン カビ ニト

ヨニ ツグ シタ ルー イサ ナ シ モン

ヨハ ロモ トモ ニ タイ カカ カラ リン キヤ

ジョー アン ミハ ニハ ハハ ショー ア ナレ ルド

(きつ)

5. 5. 6. 6. | 5. 5. 3. | 2. 2. 3. 2. | 1. 0

コ コ ソ ノ イ ツ ニ ヤ フ リ ケ ル

かひばらえきげん

貝原益軒
 田邊氏

一、よわきからだも、
 よーじょーの、
 ききめあらはれ、
 すこやかたに、
 世につくしたる、
 いさをしも、
 よはひもともに、
 高かりき。
 じょーぶな身には、
 じょーぶなる、
 こころぞじつに、
 やどりける。

二、ひろきこころも、
 がくもんの、
 ふかきよりえし、
 すぐれ得びど、
 たのしむために、
 うゑたりし、
 花ゆる人を、
 いからんや。
 ぼたんの花は、
 ありたれど、
 こころの色ぞ、
 にほひける。



かがし

一、はりつめしゆみ、ゆるむる日なく、
 雨のあした、風のゆふべ、
 まもりしかひに、いねはみのりぬ、
 うるちやもちの、このよきみのり、
 ぬしのよろこび、いかならん。
 二、ながの月日を、ぬしにつくしぬ、
 よしやすずめら、あざけるとも、
 野にすてらるる、われにつみなし、
 なすべきしことを、みななしはてて、
 三、くちてうれしき、わがからだ。

三三

か かし 田 氏

案山子

(變ろ調四拍子)

國野氏

想ヲ込メテ



1. ハナ リツメ シエ ミユ ル△ ルヒク ナク
 2. ナ ガ ノ ツ キ ヒ チ ヌ シ ニ ツ ク シ ヌ



ア ヲ ム シ キ ノ ス ア ズ メ ラ カ ア セ ザ ノ ケ ル フ ト ベ モ



マ ノ モ ニ ス テ ラ ヒ ル ニ ル イ ヲ ネ レ ハ ニ ツ ノ ミ リ ナ シ



リ ナ ル ス チ ベ ヤ キ モ シ コ ト ナ コ ミ ノ ヨ ナ キ シ ミ ハ ノ リ テ



ク シ ノ ヨ ロ コ ビ イ ガ ナ ラ ラ ン ダ

案山子

三三

元寇

(變り調二拍子)

快活ニ 納所氏

1. 1. 3. 3. | 5. 5. 5. | 6. 6. 1. 1. | 5. 0 |
 1. イワコア マカトガ ラッキン ムホオガ カンホン シノセノ ロアフジュ ッシキー ビハアヨ クミレマ ネナテン

2. 6. 6. 5. | 3. 3. 5. 5. | 2. 2. 3. 2. | 1. 0 |
 コオナニ ロノミダ ハレハル コニヤモ 一ツマン アクヨハ ンキリー ヨゲマヤ ネンダブ ノケタカ ナンカニ ツメケテ

3. 1. 1. 1. 1. | 5. 5. 5. 5. | 2. 1. 2. 3. | 2. 0 |
 ゲニデア ンワット ノボカハ ーナン ー クダシノ ニンセコ カシラ ラノーズ ヲウクラ ガデツガ クミガク ニヨヘニ ニトリノ

4. 1. 1. 2. 2. | 6. 6. 5. | 5. 5. 6. 5. | 1. 0 |
 ヨスコウ セスハミ タンレニ ルデテ ー テテウシ キキミヅ ハチニテ ジヤシシ ーアブマ ヨリミヒ マタダタ ンリリリ



一、今からむかし、六百一年、

ころは弘安四年の夏、

元の國から、わが國に、

よせたるときは十餘萬、

二、わが日本の武士は、みな、

「おのれ、にっくき、元軍め。」

日本男子のうで見よ。」と、

すすんで、てきをやぶりたり。」

げんこ

三、このとき、大風ふきあれて、

なみは、山より、まだ、高く、

てっかん、四千、くつがへり、

こはれて、海にしづみたり。」

四、あゝ。元軍の十餘萬、

にげたるものは、わづかにて、

あとは、のこらず、わが國の

海にしづみてしまひたり。」

二五

石炭

(嬰へ短調二分の二拍子)

田村氏

石炭

悲壯 =

二六

せきたん

藤田氏

一、土にうもれて、

いくとせここに、

あだにくちじの、

わが ところ。

いっしんこりて、

岩となり、

けふやうやうに、世にいでて、

ふたたび あひぬ、日の光。

せきたん

二、この世にいでし、このうれしさに、

いでやつくさん、わがちから、

身を くだきつつ、

たかれつつ、

きゆるも なにを

かなしまん、

ひらけ行く世の、

世のために。

二七

年の暮

(に 調二拍子)

輕快 = 納所氏

1. ハ ナ ガ サ イ タ ト イ フ ウ キ ヲ チ ニ
 2. ハ ナ ガ サ イ タ ト イ フ ウ キ ヲ チ ニ
 3. コ チ カ タ シ ハ タ ス タ コ シ ヤ ス モ ン ダ ガ
 4. コ チ カ タ シ ハ タ ス タ コ シ ヤ ス モ ン ダ ガ

1. イ ツ ノ カ ツ ノ ア イ ツ ノ カ ツ ノ ア
 2. ツ コ イ ン ア ゲ ツ ツ イ ユ フー リ チ
 3. ネ ガ ン セ フ ニ ッ ニ ホ ク ニ ハ ナ カ ナ
 4. メ ガ カ セ フ ニ ッ ニ ホ ク ニ ハ ナ カ ナ

1. ア ツ カ キ ノ ハ ガー ア カ ク ナ ス ル
 2. ナ マ ケ コ ノ ハ ガー ア カ ク ナ ス ル
 3. ナ マ ケ コ ノ ハ ガー ア カ ク ナ ス ル
 4. ナ マ ケ コ ノ ハ ガー ア カ ク ナ ス ル

としのくれ 設本

一、「花がさいた。」といふうちに、 三十日たたぬに、としもとり、

いつか、野山が青くなり、 花が、また、さく 四月には、

「あつい。あつい。」といふうちに、 四年生にも、ぼくは、なる。

いつか、木のはが あかくなる。 なまけることが できはせん。」

二、はちり、しもふり、雪ふりて、 四、ことは、すこし、休んだが、

白くなりたり、山のみね。 もう、來年は、休まんぞ。

あし。 今月は 十二月。 雨がふっても、さむくても、

あし。 もう、けふは 二十日すぎ。 休みはせんぞ。 せい出すぞ。」

としのくれ

二九



尋常小學唱歌第三學年中

定價金拾錢

明治三十九年一月十三日印
 明治三十九年一月十七日發
 明治三十九年九月二十七日訂正再版印刷
 明治三十九年九月三十日訂正再版發行

著作者 佐々木吉三郎

同 納所 辨次郎

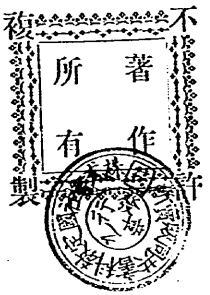
同 田村 虎藏

發行者 東京市日本橋區新右衛門町十六番地
 株式會社 國定教科書共同販賣所

代表者 大橋 新太郎

印刷者 東京市京橋區築地三丁目十一番地
 野村 宗十郎

印刷所 東京市京橋區築地二丁目十七番地
 株式會社 東京築地活版製造所



發行所

東京市日本橋區新右衛門町拾六番地

株式會社 國定教科書共同販賣所

